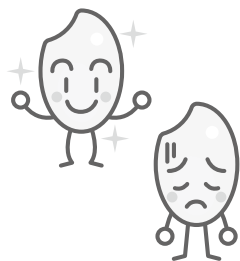


■ 未熟粒、乳白粒

- ・発生要因として、登熟する過程での障害が考えられます。①深耕(15cm)②穂肥の基準施肥量の施用③適度な中干し(歩いて沈まない程度)④適切な水管理⑤適期刈取り、等の基本技術をしっかり行い、収穫時期まで健全な稲体を保つことが重要です。
- ・近年、全品種に紋枯病の発生が見られます。今年、発生が見られた圃場では、次年度、紋枯病の予防剤を散布して、発生前からの対策を行います。

<異常気象対策>

- ・稲は気温が30℃を超えると光合成ができず、十分にデンプンを作ることができません。出穂後5~15日が最も高温障害に対する感受性が高くなり、この時期に影響を受けたお米は“乳白粒”が多く、品質低下を招きます。
- ・稲の過繁茂防止につとめる。
- ・こまめな水管理で根の機能活力維持を図り、夜間通水で圃場内の夜温を下げる。
- ・登熟期に肥効が切れないよう穂肥を適正に施用する。



■ 胴割粒

- ・胴割粒を防ぐためには、収穫間際までの水管理と適期刈取り、適正な乾燥調製が重要です。
- ・収穫間際まで間断通水(入水~自然落水)を行い、根の活力維持につとめてください。
- ・出穂期以降のフェーン現象時は湛水し、台風が通過したら直ちに落水します。
- ・籾黄化率90%・籾水分25%以下になったら刈取りを開始し、刈遅れないように。
- ・急激な乾燥は避け、毎時乾減率0.6~0.8%でゆっくり乾燥し、仕上げ水分を15.0%にします。乾燥途中(籾水分18%程度)で4~6時間程度乾燥を止め、一度調湿する二段乾燥も胴割発生軽減に有効です。

「JAたんなん特別栽培米」栽培講習会開催

開催日時 平成30年12月12日(水) 午後6時30分から

開催場所 JAたんなん 本店 4階研修室

お問い合わせ先 JAたんなん東部ふれあいセンター内 営農生活課
担当:千田まで TEL.51-8004

JAたんなんでは、福井県特別栽培農産物制度の水稲において、認証区分③(減農薬・無化学肥料)を「JAたんなん特別栽培米」として推奨しており、多くの生産者が取り組んでいます。

なお、県への申請が来年4月1日~4月30日までとなっていますので、新たに取り組みを希望される方は営農指導員にご相談ください。

※「JAたんなん特別栽培米」の参加要件

- JAが福井県特別栽培農産物認証制度による団体申請をしたもの。
- 品種はコシヒカリとする。
- JAと出荷契約をすること。
- 「JAたんなん特別栽培米」栽培ごよみに沿って栽培し、農薬は栽培ごよみに記載があるものに限る。
- 生産者が水稲エコファーマーの認定者であること。

《注意点》

- ・等級は1等とします。
- ・出荷契約数量は、作付面積に対する収量の2分の1以上とします。
- ・認証シールは、JAよりお渡しいたしません。
- ・JAに出荷しない場合は、直接、県に申請を行ってください。
- ・栽培ごよみ以外の肥料を使用する場合は、営農指導員にご相談ください。
- ・畦畔の除草対策は草刈りでの対応となります。

福井県嶺北の作況指数101(全国99) 10a当たり収量535kg【10月15日現在】

稲作経過について

育苗期間において、一部でもみ枯れ細菌による苗腐敗症が発生しましたが、ハナエチゼン、コシヒカリともに活着は概ね良好となりました。5月半ば適期コシヒカリ田植え後、低温、低日射で経過したため、ハナエチゼン、コシヒカリともに草丈は長く、莖数は少なく推移しました。6月は、全体的に葉齢の進展が遅く、コシヒカリでは分けつ数が少なく経過しました。ハナエチゼンの出穂期以降、高温で経過したため、胴割米発生注意報が発表されました。

収穫は、ハナエチゼンでは概ね順調に進みました。コシヒカリでは収穫前の台風20号と収穫時期の台風21号の影響等によって管内でも一部で倒伏が目立ちました。雨の影響で収穫は遅れながらの作業となり、品質は、日照不足による登熟不良等によって未熟粒や乳白粒の被害が発生しました。

いちほまれでは、昨年に比べて、草丈が長く、葉色がやや濃く推移しました。莖数も多く推移したため、分けつ数が過剰である圃場も見られました。品質は、胴割粒だけでなく茶米の発生も見られました。

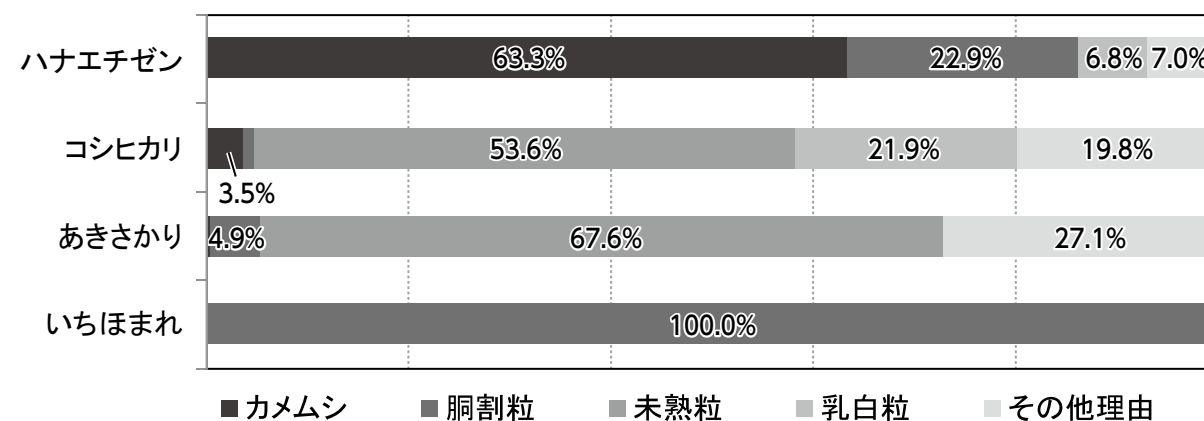
JAたんなん管内の倉前検査結果及び格落ち要因

品 種	1等比率	2等以下比率	格落ち理由の上位3理由		
			①	②	③
ハナエチゼン	94.6% (86.1%)	5.4% (13.9%)	カメムシ	胴割粒	その他
コシヒカリ	89.5% (86.9%)	10.5% (13.1%)	未熟粒	乳白粒	その他
あきさかり	93.4% (89.4%)	6.6% (10.6%)	未熟粒	その他	胴割粒
いちほまれ	99.1% (-)	0.9% (-)	胴割粒	-	-

※()=29年実績

【10月31日現在】

2等以下格落ち要因(品種別)



品質向上のポイント

■ カメムシ

- ・カメムシは、雑草管理と薬剤散布で発生を抑えることができます。
- ・雑草管理は、出穂10日前までに畦畔や周辺の除草を地域一斉に行い、カメムシの発生源を減らし防除効果を高めます。圃場内においても出穂前のエサとなるヒエは残さないことが重要です。
- ・休耕地や大麦刈取り跡、そば作付予定の圃場も刈払機やフレールモア等での除草や耕起、または除草剤散布を実施します。
- ・薬剤散布は、圃場の生育状況を見て適期に散布する事が大変重要です。穂揃期と傾穂期(穂揃期の1週間後)の2回薬剤を散布します。毎年カメムシ被害のある圃場については、さらに1週間後に3回目の薬剤を散布します。